

1 主題

「学力向上に向けた学習習慣と基本的な生活習慣の形成を図り、
さらに充実させるための小中連携の在り方」

2 主題設定の理由

(1) 「連携」の趣旨に基づいて

「中一ギャップ」を解消し、小学校から中学校への滑らかな接続を図ることにより、義務教育9年間を通した系統的な学習指導による学力向上

◇系統的な学習指導の中心は『ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり』

(2) 南浜中学校区の児童生徒の実態から

①児童生徒を取り巻く現状

これまで学習習慣形成のため「南浜授業の約束」「南浜家庭学習の約束」を設定し、小学校と中学校の連携、学校と家庭との連携によって推進してきた。また、基本的な生活習慣の基本はあいさつであるという共通認識のもと、保・小・中が同歩調で、家庭・地域にも呼びかけ、南浜地区一体となった「南浜さわやかあいさつ運動」を推進してきた。

最近では少子化が顕著に進み、本学区では、教職員数の減少、複式学級の増加、部活動の再編成など、年々学習環境が変化している。そこで、児童生徒が安心して学校生活を送り、一人一人が目標をもって自ら努力し、達成感を味わいながら学ぶ学校環境、学習指導、生徒指導の在り方が今日的課題となっている。

②基本的な学習習慣など学習面にかかわること

南浜中学区の学力の実態をふまえ、特に学力向上について小中連携した取組が必要であるとの認識の元、小中各校において家庭学習の習慣化と基礎的・基本的内容の確実な定着に取り組んできた。家庭学習の習慣化について、児童生徒と保護者の評価が乖離しており、授業の指導が学習習慣や学力向上に結び付いているかを検証していく必要がある。

③基本的な生活習慣にかかわること

これまで重点的に取り組んできた「あいさつ、正しい言葉遣い」については、改善が見られるようになってきたが「相手のことを考えた伝え方」については不十分であるため、今後も家庭・地域と連携して取り組みたい。モバイル端末の普及に伴い、児童生徒の生活習慣の乱れや視力低下が見られており、発達段階に応じた指導や家庭との連携・啓蒙が必要である。

(3) 家庭や地域の願いから

南浜中学校区では児童生徒のよりよい成長を願い、南浜地区青少年生活指導協議会や南浜地区防犯協会などが活動しており、地域全体として児童生徒の健全育成への関心が高い。これらの地域の力を生かし、地域密着型教育との関連を図りながら児童生徒の健全育成に取り組む必要がある。

(4) 小中連携を通してめざす児童生徒像及び教職員像

○めざす児童生徒像

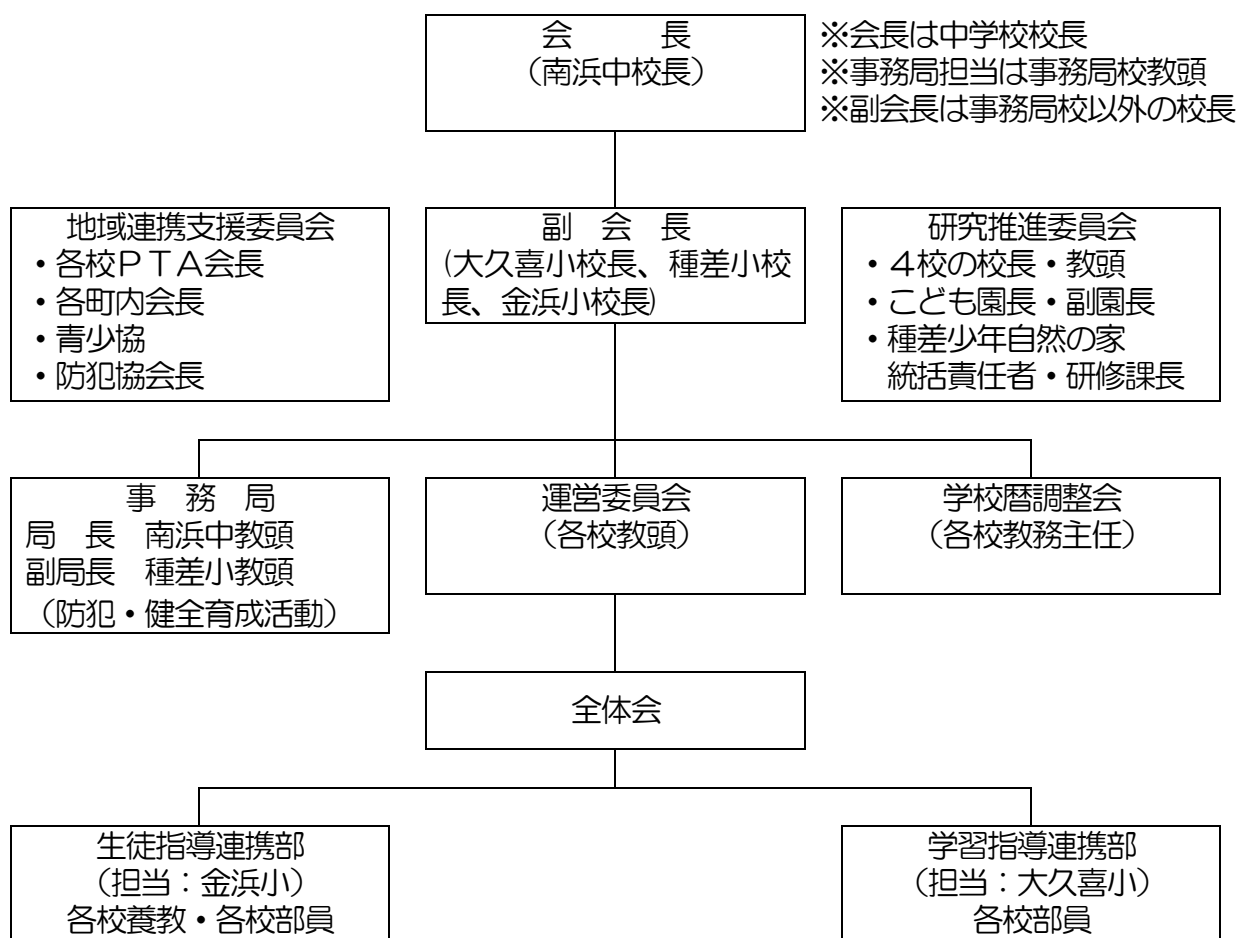
- ・意欲的に学習に取り組む児童生徒
- ・自己を律し友達と協調しあって行動できる児童生徒
- ・目標に向かって主体的に努力する児童生徒
- ・生まれ育った地域に愛情と誇りをもつ児童生徒

○めざす教職員像

- ・広い視野をもち、長期的視点に立って児童生徒を指導できる人間性豊かな教職員
- ・教育の専門家としての確かな力量をもち、常に学びつづける教職員
- ・児童生徒、保護者、地域住民に信頼される教職員

3 小・中学校ジョイントスクール推進事業を推進するための組織

令和5年度 南浜中学校区小・中学校ジョイントスクール推進協議会組織



※運営委員会…各校教頭（各校との連絡調整、共通の取組を各校で推進）

各行事に対する反省及び改善策の提案 等

※生徒指導・学習指導のいずれかに全員が所属し、協議・活動をする。

※各部の部長…各担当校の代表者。

※各部の活動内容

◎学習指導……『南浜学習の約束』（進んで発表・活動）と『南浜家庭学習の約束』に関わる課題把握と共通実践項目の検討、推進

⇒『ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業』と『南浜家庭学習の約束』に関わる課題把握と共通実践項目の検討、推進

◎生徒指導……『南浜中学校区スローガン（挨拶、清掃、整理整頓）』と『南浜ネット・ゲーム利用のルール』に関わる課題把握と共通実践項目の検討、推進

※副事務局校は防犯・健全育成に関わる標語等の作品応募を担当【会計は事務局(青少協)】

4 中学校区の重点指導項目

南浜中学校区 重点指導項目

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| (1) 発達段階に応じた学習習慣を身に付けさせる | (学習指導連携部) |
| (2) 「自分の考えを伝える」力の育成を図る | (//) |
| (3) 学校間の授業交流に取り組む | (//) |
| (4) 南浜中学校区スローガン（挨拶、清掃、生活習慣）を達成させる | (生徒指導連携部) |
| (5) ネットモラルについて計画的に指導する | (//) |

重点指導項目の取組について

1 重点指導項目

- ◎ 「自分の考えを伝える」力の育成を図る
- ◎ 発達段階に応じた学習習慣を身に付けさせる
- ◎ 学校間の授業交流に取り組む
- ◎ 南浜中学校区スローガン（挨拶、清掃、生活習慣）を達成させる
- ◎ ネットモラルについて計画的に指導する

2 取り組みの内容について

(1) 家庭学習の内容の充実（授業と家庭学習との関連）

「南浜」家庭学習の約束（決められた時間いっぱい、集中して家庭学習に取り組む）

- ① 毎日（ ）分、家庭学習に取り組む。

小学生 1・2年…30分

中学生 1年…1.5時間以上

3・4年…45分

2年…2時間以上

5・6年…1時間以上

3年…2.5時間以上

（但し6年生は中学進学を見据えて3学期から1.5時間とする）

(2) 「南浜」授業の心構え

- ① 次の授業の前に、学習の準備をする。
- ② 指名されたら、いつでもはっきり返事をする。
- ③ 自分の考えをもち、進んで伝え合う。
- ④ ノートやプリントは「正しく書く」「丁寧に書く」「見直す」。
- ⑤ 宿題・提出物は、期日を守る。

(3) 南浜中学校区スローガン（挨拶、清掃、生活習慣）

- ① さわやかな挨拶ができる生徒
地域・学校・家庭 いつでもだれにでもきれいな言葉で伝えよう。
（あいさつ・ありがとう・ごめんなさい・きれいな言葉遣い）
- ② 一生懸命掃除ができる生徒
時間いっぱい働く
- ③ 健康的な生活習慣を実践できる生徒
早寝・早起き・朝ご飯、ゲームやインターネットの使用時間

(4) 南浜ネット・ゲーム利用のルール（インターネット・オンラインゲーム等の取り扱い）

- ① 食事中には使用しない。（小学生は宿題・食事が終わってから使用する）
- ② 睡眠を小学生は9時間以上、中学生は7時間以上とれるように使用する。
- ③ 小学生は20時以降は使用しない。中学生は22時以降は他人と関わらない。
- ④ 家族でも利用のルールをつくり、見直しをする。
- ⑤ 誰かが不快に感じるような言葉や画像、他人の個人情報は発信しない。
- ⑥ トラブルに巻き込まれた時やその可能性がある時は、保護者や学校に相談する。
- ⑦ 知らない人とは、連絡を取らない、会わない。

◆ 今年度の取組について

【学習指導連携部】

(1) 「自分の考えを伝える」力の育成を図る

- ・各校少人数ゆえに「はきはき話す」という点で課題が見られる。発言する児童生徒の固定化もあり、学習面の様々な格差につながっている。意見交流の前に、一人一人が意見をもてるような訓練が必要である。行事の振り返り等、楽しめる話題では活発な発言が見られることから、授業においても「児童生徒が話したくなる課題づくり、展開」の研究が求められる。

(2) 発達段階に応じた学習習慣を身に付けさせる。

- ・アンケートでは各校とも児童生徒と保護者の評価の乖離が大きい。J Sの目標学習時間が長くなる中学校では、上級生になるほど達成度が低くなっている。「授業でできないことは家でもできない」と考え、「正しく書く」「丁寧に書く」「見直す」の徹底を図り、それが家庭学習につながっていくことを検証していく。

(3) 学校間の授業交流に取り組む

- ・R4年度は久々に小・中ともに授業公開ができ、複式授業等、学区の教育の特色について理解が深まった。⇒全体会で中学校の授業公開、2学期に小学校（大久喜小）の授業公開

【生徒指導連携部】

(1) 南浜中学校区スローガン（挨拶、清掃、生活習慣）を達成させる

①さわやかな挨拶ができる

- ・アンケート結果では向上が見られるが、「決まった場所で、決まった挨拶はできる」「言われれば返す」という傾向が依然見られ、「自分から、自然に」となるところまで指導していきたい。家庭との連携も必要である。

②一生懸命に掃除ができる

- ・各校小規模化が進んでおり、少人数で広い校舎をよく清掃している。家庭の手伝い、整理整頓の面では、保護者はもっとできてほしいと思っている。少人数の負担を減らすため、機材整備を進める学校もある。機材によっては家庭の掃除につながることも期待され、情報交換を進めていきたい。

③健康的な生活習慣を実践できる。（ネット・ゲームの利用時間）

- ・児童・生徒と保護者の評価が乖離しており、面談の活用等、実態把握と指導の工夫を図っていききたい。夜遅くまで使用する児童が学年問わず見られ、学習習慣の定着の格差にもつながっている。中学校では6割の生徒が視力検査でD判定となり、健康にも影響が出てきている。

⇒1日1時間といった、使用時間や時間帯に主眼を置いたルールは実態に合わない部分も見られる。1人1台端末の持ち帰りや健康的な生活の実践といった、実情の変化に合わせたルールの見直しや生活リズム調査の改善が必要である。J Sの約束事をもとに、各校の実態に合わせたルールづくりについて情報交換を進めていく。また、健康に主眼を置いたネットモラル教室の開催や教室の内容・講師等に関する情報交換に取り組む。

(2) ネットモラルについて計画的に指導する

- ・クラブチームの普及や部活動の変化に伴い、学区や校種の枠を超えたネット交流が広がっている。トラブルも身近にある現状や、指導の在り方について情報交換が必要である。
⇒ネットトラブルから自分で身を守り、将来の自己管理の力を身に付けさせるため、家庭でのルールづくりや見直しについても意識付けを図る。

【運営委員会】

(1) 小中の情報交換を密にするために

- ① 全体会で、中学校からの情報提供を行い、全員で共通理解する。（事務局担当）
- ② 中学校の授業を小学校教員全員で参観する機会を設ける。…6/5全体会（南浜中担当）
- ③ 小学校の授業を参観する機会を設ける。11月15日（大久喜→種差→金浜小）

【アンケートの実施】

(1) 学校評価とあわせてJ Sの重点項目についてアンケートを実施し、各校でまとめ、運営委員会にて共有し、各校の新たな実践につなげる。

- ⇒・シールを作成し、ライフ・自主学习ノートに貼り、意識して実践できるようにする。
・J Sのアンケートを学校評価に入れる。【ともに継続】

◇ 令和5年度 事業計画

学期	月	日	研 究 内 容	担当校、場所等
Ⅰ	4	17 (月)	運営委員会議 ・1年間の事業の確認と各事業の計画 ・重点指導項目の研究計画 ・全体会の内容について	南浜中学校
	5	8 (月)	二連携部会部長会議 ・実践研究計画の共通理解と二部会の連携を確保する。	南浜中学校
		随時	各連携部会（学習・生徒指導） ※各部長がリードして、実施（各校1名参加） ※6月5日（月）の全体会に向けた原案作り	学習：大久喜小 生徒指導：金浜小 （案内は各校教頭）
	6	5 (月)	事業①…南浜中学校区小・中JS授業研修会・全体会 ※期日、持ち方等については会場校に一任。	会場：南浜中
	7	21 (金) 等	事業②…小・中学生防犯・健全育成事業 （標語等の作品応募） ※小学1年以上対象	担当 種差小 青少協・防犯協会 各校訪問 （1学期終業式）
Ⅱ	8	28 (月)	運営委員会議・二連携部長会議（予備） ※2・3学期の事業の確認 ・アンケートの内容検討・情報交換	南浜中学校
	11	(一)	事業…6学年児童による南浜中学校訪問（授業参観・授業体験・部活動体験等）※令和6年度に向けて再開を検討	南浜中学校
	11	15 (水)	事業③…授業研 ・小学校の授業参観 ・二連携部会会議（学習・生徒指導）	大久喜小 学習：大久喜小 生徒指導：種差小
Ⅲ	1	冬季 休業中	各学校（学習・生徒指導） ・アンケート等をもとに成果と課題を協議し、次年度の 取組事項について協議する。 ※結果を事務局に送付。22日の運営委員会議で次 年度の計画に生かす	
		18 (木)	南浜中学校区小・中ジョイントスクール学校暦調整会 （各校教務主任） ・6年度の学校暦調整と年間事業計画案の日程調整	南浜中学校
		22 (月)	南浜中学校区小・中ジョイントスクール運営委員会議 （各校教頭）・二連携部長会議 ・各連携部でのまとめを報告し、共通理解する。 ・次年度の見通しを持つ。 ・6年度の研究主題・計画の立案 資料：各連携部まとめ、事業計画案、実施計画書案	南浜中学校 ※事前に原案を各校 教頭に送付
		31 (水)	南浜中学校区小・中ジョイントスクール校長会議10時 ・6年度の事業推進計画について協議及び情報交換 ※原案は事務局が作成する。	南浜中学校
	3	21 (木)	事業⑤…新生1日入学・情報交換（担任、養教）	南浜中学校

※令和6年度に向け、4校合同の「感謝と歓迎の集い（飲食・会計を伴わない歓送迎会）」を検討